

石巻専修大学特集

http://www.senshu-u.ac.jp/shinomaki/

代表電話番号

0225 (22)7711

広大で自然豊かなキャンパスで展開されるきめ細かな少人数教育。創立26年を迎える石巻専修大学が目指す大学像、学生像を坂田隆学長にお聞きした。また3学部の学部長に各学部の魅力を伺った。

社会を支える人材を育成

坂田隆 学長



学生たちの成長を実感

対外的に活躍するゼミや研究室が目立っています。新たなブランドを石巻に誕生させた石原慎士ゼミ(経営学部)、学外の全国大会イベントで見事な発表をやり遂げた山崎泰史ゼミ(同)。理工学部でも人間学部でも現場へ出て実践力を磨き、成果を上げています。やゼミが多々あります。いずれも教員が工夫を重ね全力で研究に取り組む姿を学生たちがしっかりと受け取り、開花させたものです。地域貢献の志を原動力に、自ら考え、判断し、行動する社会性が育まれているのもうれ

は、目立たないところで社会をしっかりと支える人材の育成です。スタープレーヤーを育てることではありません。スターは一人で十分ですが、舞台を支える人間がたくさんいなければ社会は成り立ちません。「学生たちがきちんとあいさつをしますね」「企業など外部の方から学生の礼儀の良さにお褒めの言葉をいただきました。うれしいことです。勉強面でも、素直に吸収し、真面目から取り組む学生が育っています。教員が「君たち」ではなく個人の名前を呼び、一人の人格として学生に接し、対話を重視する少人数教育の良さがあらゆる場面に表れているのを感じています。

また、年齢や学部を超えた寮での社会生活を体験することで、学生時代の得難い思い出となるでしょう。本学の新たな「顔」にしたいと思っています。

震災復興を機に

文・理の枠を超えた新しい学問創出へ

昨年からはじまった「復興ボランティア学」が好評です。NPOやボランティアの団体リーダーが、現場の真の姿、復興の様子を報告する、メディアや報道では聞けないもの。理系、文系の枠を超え、多くの領域の研究者が取り組めることもポイントです。

震災は極めて辛いものでした。しかし、前例のない体験をした私たちは、次世代に向かって「なにをすべきか」を伝えていく責務があります。大それた挑戦かもしれませんが、数年先を見つめて取り組んでいきます。(専門は比較栄養生理学)

よう。きめの細かい教育と就職指導を行うことによる学生の成長を実感しております。

新たな「顔」に

キャンパスでは、学生寮「石巻専修大学ユニバーシティハウス」の建設が進められています。

構内の学生寮は以前から求められていました。震災後の交通事情や居住状況からみても待望していたものです。誕生すれば、初めて石巻に滞在する女子学生や留学生、長時間の実験を必要とする大学院生も安心して学習や研究に取り組めるとともに、遠方から通う学生はサークルなどの課外活動に存分に打ち込めます。

吉原章 理工学部長



二つの心々を学ぶ

川・海・山の豊かな自然環境に恵まれた本学の理工学部は、生命の起源から最先端の工学技術までを網羅する4学科(環境工学、生物材料、機械工学、情報電子工学)で構成されています。理学と工学は車の両輪である。この理念に基づき、「自然」と「ものづくり」の二つの心々を学ぶことが特徴です。

これら4学科は、豊かな教養と専門性を育み、それぞれ独立しながらも有機的に結びついており、学生一人一人の学びの成果が広がっていくことが強みです。

東日本大震災の被災地域の環境調査などに参加する学生がいます。震災時の体験をもとに減災グッズを開発した教員もいます。駿河湾で漁師とともにサクラエビの鮮度確保に取り組み教員の姿はメディアで話題になりました。

佐々木万亀夫 経営学部長



実践力つけるゼミ

経営学部では企業や組織の活動から能力を身につける「マネジメ」や「まちづくり」のゼミが人気です。また、実践力を磨く「ビジネス会計」とは「なにを」を学びます。

「面白いことをやっている大学」と認識されています。この「面白さ」が、学生と教員との接点で話すと、学生が興味を持ち、実践力を磨くことに繋がります。

学生たちは子どもとの接し方や授業の進め方を学び、先生になる自覚を身生えさせたことでしょう。今後、保育園、幼稚園、特別支援学校にも広がります。

山崎省一 人間学部長



共生社会を支える

人間学部(人間文化学科と人間教育学科)は人間支援、地域支援の観点から共生社会を支え、その発展、向上に貢献します。

力を入れていきます。5月、人間教育学科の2年次生が参加して、石巻市立石巻小で授業見学会を2回開催しました。

ち、人間と文化が地域にできることを考えてほしい、地域社会を変えようとする気概を持つてほしいと思います。